

金子みすゞ（みすず）の詩から

『私と小鳥と鈴と』 金子みすゞ 「1903 年 - 1930 年日本の童謡詩人。（ウィキペディア）」

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

人の能力をただうらやましく思うのではなく、また、やっかみをもって足を引っ張るのではなく、「みんなちがって、みんないい。」という気持ちを持つことで、他人を大切にし、自分を大切にすることができる。皆それぞれに得意・不得意があるのだから、不得意を得意が補っていくことで社会が成り立っていくのだ。ちゃんと周りの人を大切にしているか。ちゃんと自分を大切にしているか。

一方、「これもできない」、「あれもできない」と嘆いたり諦めたりしてはいないだろうか。1 学期の始業式、入学式で、YOASOBI の『群青』の話をした。ある時見つけた未熟な夢を「青い誓い」と表し、何度も何度も繰り返し挑戦することで徐々に自信をつけていく。そして透明だった僕が「青い光」を見つけ、かけがえのない僕の存在に気付き、成長を実感するというストーリーだ。自分には「何ができるか」、「何が得意か」を考えてみた時、今あなたの「青い誓い」を見つけ、「青い光」に向かって進み始めているか。その答えは今出ていなくてもいい。出ていなくてもいいから、探し続けてほしい。「みんなちがって、みんないい。」のだから。ちなみに、12 月 31 日の紅白歌合戦に出場する YOASOBI は、『群青』を演奏する。まるで本校のために選曲してくれたようだ。そのライブパフォーマンスを楽しみにしている。

南谷 真鈴（みなみや まりん）を知っているか。

南谷真鈴さんは、世界の 7 大陸最高峰+北極点+南極点の制覇者＝エクスプローラーズ・グランドスラムを世界最年少の 20 歳 112 日で達成した女性だ。彼女はインタビューの中で、

「自分にとって『ちょっとだけむずかしいこと』に関わっていくようにすると、これまでとは違った景色が見えるようになります。『心のコンパス』の向くままに生きて行く人生こそが、一番幸せな生き方だと思うんです。・・・よく晴れた空を見たら『今日は天気がいいなあ』『空が青いなあ』とちゃんと口にしてみてください。そうやって自分の感情を言葉にして、素直に受け止めることが、『心のコンパス』に従って生きるための第一歩です。・・・私たちは皆、一人ひとりの『心のコンパス』を信じて自分の進む道を決めていくことができるんですから。」（『超一流の仕事の言葉』より黒木安馬、あさ出版）と述べている。それぞれの『心のコンパス』を探してみないか。

We keep on challenging. 挨拶日本一の高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩